

令和5年度第4回小規模多機能型居宅介護事業所 「紙ふうせん」運営推進会議議事録

日 時：令和5年10月26日（木）10：30～11：10

場 所：野栄福祉センター 1階和室

出席者：大木公正 大木健守 小川秀文 太田奈津栄 江波戸勝
高齢者支援課 菅谷

〔 社協 局長
紙ふうせん 佐藤 〕

●開会のことば 局長

●委員長あいさつ

●議題

（1）令和5年度8月・9月運営状況及び利用実績の報告について

委員長：以上報告があったが何か質問はあるか。

江波戸：母が利用しているが8月に熱発した。受診したら軽い肺炎と言われ薬をもらって飲んだが、以前より元気になり回復した。身体の動きもとても良くなった。毎日の体温測定や血圧測定など大切だと感じた。

佐藤：すごい回復力で驚いた。自分の口から食事が摂れているので良いと思う。食欲が有り食べる意欲があるので元気でいられると思う。

委員長：薬よりも生きようと言う根性や意欲が大切ではないか。

大木：要介護4の利用者が居るが、対応が大変ではないか。

佐藤：急な体調変化で介護度を見直した。自宅で看取りを行うということでデイサービスの利用はなかった。

大木：介護度別内訳で18人と1人多いようだが。

佐藤：月の途中で介護度の見直しをしたため、1人の利用者が要支援1と要介護4と2つの介護度が出ているため実利用者数より多くなっている。

局長：9月18日AM9：20に紙ふうせんの送迎車が中村里の十字路でお互いの注意力不足で衝突し紙ふうせんの車は利用者を2人乗せたまま横転してしまった。2人とも救急車で搬送されたが打撲ということでその日のうちに自宅に帰された。1人はその時受診しただけで回復したが、もう1人は1週間痛みが続いたため、再度受診したところ左鎖骨骨折だったが現在は痛み無く、2人とも紙ふうせんの利用を継続している。

大木：ドクターヘリも来たようだが。

局長：1人の利用者が車から出ないでそこに座っていると聞いたため、通報してくれた近所の方が、車から出られない利用者が居ると聞いたため北総病院からドクターヘリ来てが栄小に降りた。救急車で栄小まで行き医師に診察してもらった所、ヘリでの搬送は必要ないとなった。

菅谷：自分は介護給付費を担当しているが、令和3年度は令和2年度と比べると給付費は横ばいだったが、今年度は1.56%給付費が伸びている。在宅のサービスが伸びている。感染症が収まりデイサービスやショートステイなどの在宅サービスを利用する人が増えたのではないか。

委員長：紙ふうせんでは虐待案件はないか。

佐藤：職員利用者間では虐待はないと言える。そのために勉強会も行っている。利用者の家庭内でも現在虐待が疑われるケースは見られない。

委員長：行事の写真を見ると皆さん幸せそうな顔をしている。今の家庭では季節の行事をやらなくなっている。季節感を感じられる行事はやった方がいい。

大木：今年の夏は猛暑日が続いたが、体調を崩した利用者はいなかったか。

佐藤：今は家庭内でもエアコンを使用しており、紙ふうせんのエアコンも数年前に新しい物に交換し熱中症や脱水症になる方はいなかった。デイ利用時は水分補給を随時行い、利用者にも水分補給の声掛けをしている。

●閉会のことば 局長